

資料2 「正統性」、「代議制民主主義・直接性民主主義」、「民主主義の危機」

- 正統性：「みんなが納得している」、「みんなで盛り上がること」（ p. 189,209 ）
- 代議制民主主義／直接民主主義
 - 直接民主主義：みんなが集まって直接議論する。
⇒国の人口が増えると不可能。
 - 代議制民主主義：有権者が代表（代議士）を選んで、その代表たちが議論する。
- 代議制民主主義の正統性の喪失：選ばれた代表が、ないし代表を選ぶという行為が、人びとを納得させることができなくなってきたから。

⇒「民主主義の危機」と呼ばれる。

ただしここで「民主主義の危機」と言われているのはあくまで代議制民主主義についてのこと（古代では、あるいはルソーにとっては、民主主義とは直接民主主義のことではなかったが）。

⇒「代表を選ぶ」とはどういうことか？

・・・「代表」とはそもそも「われわれの代表」のこと

⇒「われわれの代表」という感覚が持たれているかぎり、代表の決定が正統性と持つ、つまりそれについて人々が納得しうる。

⇒それにはなによりも「われわれ」というまとまりがしっかりしていることが必要。

⇒しかし「われわれ」を形づくっていた労働組合、地域、国家、会社、家族のまとまりが（ポスト工業化〔 p.18-21 〕とともに）悪くなってきた。

⇒このことが代議制民主主義の正統性の喪失（民主主義の危機）につながっている。